

一歩



令和
七年

社会福祉法人アルカディア
令和7年 2月発行 第67号

第5回シンポジウムを控えて、過去シンポジウムを振り返る。

～みんなで考える障がい者も安心して暮らせる街づくり～ シンポジウムとは…

2016(H28)年度より始まった、当法人が事務局となり開催されたシンポジウム。この度、令和7年2月25日(火)13:30～ 場所:宝泉行政センターにて開催される。あの未曾有のコロナ禍を経て、約5年ぶりの対面開催となる。そこで今回のニュースレターでは、今までのシンポジウムを振り返り、意味・意義を周知すると共に、一人でも多くの方が足を運んでいただけるよう、紹介をしていきたい。

シンポジウム 変遷

第1回

『障がい者が安心して暮らせる街づくりを市民とともに考える』

2016年7月24日(日)

場所:宝泉行政センター
各障がい分野毎ではなく、太田市で3障がいを対象とした初のシンポジウムの開催。

第1部で知的障がい・身体障がい・精神障がい者の当事者の方々やピアサポーターが登壇し、自身のこれまでの生活を語る。第2部では座談会を開催し、当事者の方々や施設職員のみならず、ご来場していただいた方々にもご参加いただき、様々な意見交換が行われた。

第3回

～こころの豊かさって何?～

2018年11月18日(日)

場所:宝泉行政センター
司会:精神科医(産業医なども歴任)による、身体障がい・知的障がい・精神障がいを抱えている当事者の方の生活を伺う。生活していく上でのこころの豊かさについて語り合った。今回は【感謝をつぶやく・ささやく・叫ぶ】から、【気持ちをささやく・つぶやく・さけぶ】に変わり、当日参加のご来場者の方々が続出し大盛況となった。

令和3年度

～私の生活とコロナ～

コロナ禍もあり集合型のシンポジウム開催ではなく、冊子形式での『シンポジウム』の発刊を行う。

令和5年度

より多くの市民の目にも留まるよう気軽に閲覧が出来るように令和4年度～人と人とのつながり～をデジタル化した。

2016

2017

2018

2019

2021

2022

2023

第2回

～障がいは、他人事ではない～

2017年11月26日(日)

場所:太田市立太田高等学校 大ホール
コーディネーター:大学准教授をお招きし、シンポジスト4名との座談会。初めて参加者に【感謝をつぶやく・ささやく・叫ぶ】という感謝の表現をしていただく場となった。イムス太田中央総合病院の看護師の方々による、健康チェック・健康測定も初めての試み。

第4回

～私も話したい・聴きたい～

2019年11月30日(土)

場所:宝泉行政センター
上州ろう太鼓 心響による演奏、手話通訳を初めて導入した。身体・精神・知的障がいを抱えている当事者の生活をお話し戴いた他、太田道草の会(ひきこもりの家族)のお話も。台風19号による被害に遭われた方への募金活動も行われた。当日に向けてFM太郎や様々な媒体で実行委員会による告知を行った。



第5回シンポジウムによせて

太田精神障がい者を守る家族の会（ひまわりの会） 会長 岡部典行

この度シンポジウムがコロナ禍後対面で再開できることとなりました。（社福）アルカディアの呼びかけによってです。もともとアルカディア理事長中田 駿さんの発案によってシンポジウムが行われました。私は第2回から実行委員として参加させていただきました。第3回、第4回進んだところでコロナ禍となってしまいました。その間も冊子として発行していました。そして今回対面での開催が実現することとなりました。

趣旨としては当事者中心であるということです。当事者に語ってもらう。苦しみ悲しみだけではなく、喜び楽しみもです。障がい者も趣味等の楽しみも持っているのです。日本国憲法には「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」とあります。障がい者もカラオケに行ったり、楽器を弾いたり、コンサートに行ったり、スポーツ観戦に行ったり、絵をかいたり、プラモデルを作ったりして楽しみを持っていたりするのです。ただそれが極端に制限されていたりします。付き添いがないと外に出られない障がい者の方々もいます。外に出ても邪魔者扱いされてしまうこともあります。奇異な目で見られてしまうこともあります。

シンポジウムにおいてそのような苦しみ、悲しみ、喜び、楽しみを当事者同士で共有できます。当事者ではない人は理解していただきたいと思います。できれば障がい者と全くかかわらない方々にきていただいて少しでも理解していただきたいと思います。そして障がい者と健常者が分け隔てなく、気付かないくらいになってほしいと思います。

今回、第5回「シンポジウム」みんなで考える障がい者も安心して暮らせる街づくり～もっと暮らしやすくする為にin OTA～と題されました。物理的なバリアフリーは進みつつあります。問題は心のバリアフリーだと言われています。もちろん自分がいつ障がい者になるかわからない、いつ障がい者の家族になるかわからないということもあります。そういう時に少しでも知識として知っていれば慌てることが少なくてすみます。

私自身のことで言えば驚き慌てました。どうすればいいのだろう。きっと精神的なものだろうと思わずすぐ病院に行きました。一緒に入院していた人たちも治したいという一心で精神科心療内科とほとんど気にせずに行っている人が多いです。今から30年以上前のことですが、退院するとき主治医の先生が「こういう病気になったということは他の人には絶対に言ってはいけません。世間ではまだ認知されていないので。」と言われました。強迫性障害ですが。

最近、芸能人で強迫性障害をカミングアウトされた方がおります。申し訳ありませんが強迫性障害が世間に知られたと思います。その方は残念ながら今夏で活動をやめるということでした。今後のお幸せを祈るばかりです。その後私は、うつ病、適応障害にもなり、こうやって言ってしまうています。前年65歳となり前期高齢者の仲間入りをしました。ある精神科の先生も自分の暗い過去を話せるようになったのは50歳を過ぎてからだと言っておられます。そして自分の暗い過去を話すことは自分の回復にもつながるということです。

前に出ていろいろ話す当事者の方々には、ただでも緊張しますのに大変な勇気が必要です。ですが回復につながると思います。勇気づけられます。応援します。こういった勇気ある当事者とともにシンポジウムが行われることで啓発につながっていくと思います。そして、より暮らしやすい太田市、群馬県、日本となっていくことと信じます。

最後にアルカディアをはじめ実行委員等関係諸機関に多大なる感謝を申し上げます。

かつて登壇した方にインタビューさせていただきました

・どういった経緯で登壇しましたか？

当時私、お仕事をしている毎日だったんだけど、ある日職員さんが「シンポジウムがあるから、どうしても自分と一緒に出て欲しい」と言われた。初めは、シンポジウムって何だかわからなかったし、登壇するとは思いませんでした。何をやるのかなって思っていたら、当日になってみんなの前に出ると知って、一気に緊張したのを覚えています。

・シンポジウムで登壇してみて感想はどうでしたか？

職員さんからの打ち合わせはあんまりなく、みんなの前に座って職員さんと話すことで一生懸命だった。自分のことを話すので精いっぱい、あんまり何話したかよく覚えてない。でも、座っているみんなの顔が見えて、知っている人たちが驚いていたのを覚えています。

自分のこと話すのは、別に平気だし話し始めたら緊張もそこまでなかった。自分のことよりは、色々な人の話を聞いて『大変な人もいるんだな〜』って思った。登壇した人とも話せて、遠い知り合いだと知って嬉しかったなあ。

・シンポジウム自体の印象はどう受けましたか？

みんなに自分の生活や生き立ちを話せたのも良かったし、聞いたのも良かった。タメになったなあ…。またシンポジウムがあると聞いて、参加したいと思いました。どちらかと言うと、また話してみたいな(笑)今度は、今働いているところの給料の話とかもしたいな(笑)

・最後に…

みんなもどういう仕事してるのかなあ。どういう生活してるのかなあと気になる。私はグループホームにいるんだけど、みんなはどこにいるのかなあ。色々な人の話を聞いてみて、一緒に生活頑張ろうって言いたい。土日はどんなことしてるの？って聞いてみたいし、教えてあげたい。

〈教えることで、少しでもみんなの為になるのなら〉

編集後記

第5回目シンポジウムが開催出来るのも、実行委員の皆様、そして、ご支援してくださる関係者の皆様のお力添えがあったことです。

コロナ禍もあり、集合形式という選択を避け、早5年の間が空いてしまいました。当法人でもシンポジウムに参加したことがない職員も居り、それだけ年月が経過してしまったことを痛感しました。第1回目より関わっている先輩職員一同、今までのシンポジウムに劣らない素晴らしいものを作り上げる為、支援者として試行錯誤を繰り返していかなければなりません。

当事者主体で太田市を考えるこのシンポジウムに、皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

ニュースレター実行委員会

法人本部

群馬県太田市鶴生田町

733-123

TEL：0276(20)2509

FAX：0276(20)2510

HP：http://arcadia-gr.com

就労継続支援B型事業所 麦の家より 新築移転のお知らせ

外観パース



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、当事業所は今年春頃に新築移転する運びとなりました。場所は、今の麦の家から数百メートル程しか変わらず、環境も大変馴染みがあるかと思えます。1階平屋、バリアフリー対応となり生まれ変わる予定です。

ついては、現在でも利用者さまを募集しております。皆様の携わっている方々や、関係者の方々に「就労継続支援B型に興味がある」「太田市で働ける場所を探している」「お菓子作りをしたい」「知っている会社の仕事をしてみたい」などの方がいらっしゃれば、ご紹介して頂けると大変ありがたく思います。

麦の家
Instagram



麦の家
太田フリモ



麦の家
ホームページ



「麦の家」「はばたき」「グループホーム事業所」でも利用者さまを募集しております。一度SNSなどチェックしてみてください。

はばたき
ホームページ



GH事業所
ホームページ



GH事業所
Instagram

